（第3種郵便物認可）　埼玉新聞

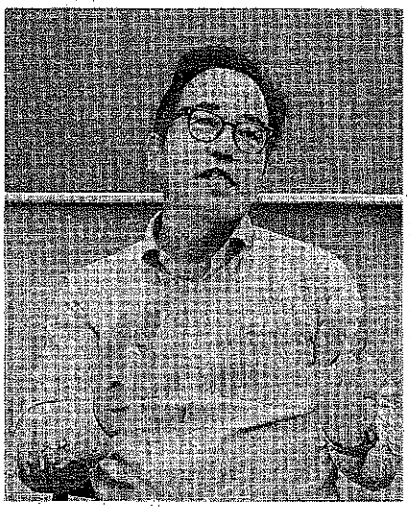
ママの笑顔が子を伸ばす

教育 NIE

NIE…Newspaper In Education　教育に新聞を

人気急上昇中の学習塾「花まる学習会」（さいたま市浦和区）の高浜正伸代表（56）が3～12歳の保護者に向けた「子どもの可能性を伸ばす『しない』子育て」（KKベストセラーズ）を出版した。子を思うあまり世話を焼いてしまう家庭が多い中、あえて41の「しない」を提案。「お母さんが笑顔で過ごすことが、子どもが伸びる一番の秘訣（ひけつ）」とママたちへのエールが詰まった本だ。（小出菜津子）

花まる学習会 高浜正伸さん



「子育て中にピリピリするのはしょうがない。だからこそ心を許せる人と話したり、生きがいを持ってほしい」と話す「花まる学習会」の高浜正伸代表＝さいたま市浦和区

「花まる学習会」開設以前、塾講師をしていた高浜さん。大学受験指導の中で、覇気のない生徒が多いことにショックを受け「公立学校が駄目なら塾でやるしかない」と決意。1993年4月、知り合いだった川口市内の幼稚園長の協力もあり、同市で塾をスタート。サマースクールや学ぶ楽しさを実感させる授業が評判を呼び、現在127カ所で塾を展開。1万9450人が学んでいる。

何千、何万の子どもと保護者を見てきた経験から、幼児期、児童期の環境によって伸びる子、伸びない子が決まると確信する。「週1回の塾だけではどうしようもない。親を変えなくては」と講演会、本の執筆にも力を入れている。

高浜さんが懸念するのは「真面目なお母さん」だ。完璧さを目指すあまり、子どもの欠点ばかりを見て叱ってしまう。高浜さんは自身の体験を振り返る。小学校3年生の時、先生から「この算数の問題ができたのは高浜だけだな」とほめられたことで「頭に花がパッカーンと咲く」ほどの喜びを感じた。当時内気だった高浜少年は積極的になり、クラスの人気者になったという。「根拠のない自信を得たことで人生が変わった。その逆で『できない』とお母さんから言われると苦手意識は続いてしまうんです」と話す。

「『しない』子育て」を出版

「子どもの可能性を伸ばす『しない』子育て」

核家族化で孤独と不安の中、子育てする母親たちを見てきた高浜さん。本では、子育てから離れた時間を持ち、充電することの大切さを説く。「子どもは勝手に学んで育つ。お母さんはとにかく肩の力を抜いて」

本では「目先の『できた』『できない』を気にしない」「子育てに正解を求めない」「いたずらするのが子ども」と気が楽になるポイントを紹介。また「買い与えはしない」「大人の配慮でほめない」など注意すべきことも盛り込んだ。

高浜さんは「笑顔は『しなければならないもの』ではなく、自然とにじみ出るもの。どうやったら自分の笑顔がはじけるのかに力を注いでほしい」と話している。

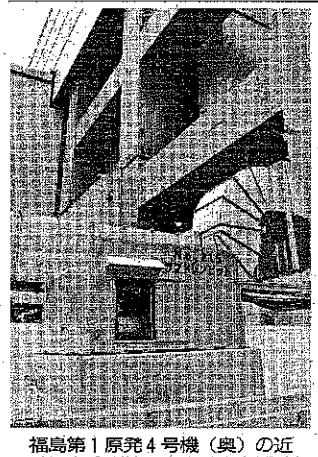
地下水を初めて海へ

福島原発の汚染水対策

東京電力は、福島第1原発の建屋周辺の地下水をきれいにして海に流す「サブドレン計画」で、昨年建屋の周辺でくみ上げて保管（ほかん）していた水を、初めて海に流しました。

福島第1原発では、1日約300トンの地下水が原子炉（ろ）建屋に流れこみ、事故（じこ）でとけた核燃料（かくねんりょう）にふれ、汚染水（おせんすい）になり続けています。建屋周辺のサブドレンとよばれる41本の井戸（いど）から地下水をくみ上げて、建屋に流れこむのをふせぐのがサブドレン計画です。国や東京電力は建屋への汚染水の流入量を、半分ぐらいにへらせると期待しています。

くみ上げた水は、タンクにためて浄化設備（じょうかせつび）できれいにして、きびしい目標値（ち）を下回っていることを確認（かくにん）した上で海に流しますが、取りのぞけない放射性物質（ぶっしつ）もあります。漁業者の不安にこたえるためにも、国と東京電力は汚染水を適切（てきせつ）に管理しないといけません。



福島第1原発4号機（奥）の近くにある、地下水をくみ上げる井戸「サブドレン」＝8月

ヤングアダルト 13歳からの1冊

「生き延びるための作文教室」

石原千秋著

「何でもいいから自由に書いてごらん」と言われ、一行も書けずに固まっている生徒を見たことがある。頭が悪いのではない。きっと、本当に自由に書いたら受け入れられないことを知っているのだ。学校での「自由」とは、学校が許す範囲での自由にすぎない。そこには、「あるようなないような」壁、ガラスの壁がある。

一方で、先生が喜びそうなことをスイスイと書いてみせる生徒がいる。彼は自由だろうか？

「良い子」を演じてはいないか。そこにはうそがないか。でもそれは、その生徒のせいではない。学校空間とはそういう場なのである。だったら、上手にうそをつけ。これが著者のメッセージである。学校空間で許される、しかも「個性的」な作文の書き方を指南する。いや、個性的に「見える」書き方を教えてくれる。

あけすけで率直である。だからこそ、効果絶大だ。この本を読んだ後では、もう「みんなと同じ」作文は書けなくなっているだろう。（河出書房新社、1404円）

ヤングアダルトとは、中高生を中心とする13歳から20歳の世代を指す言葉。ヤングアダルト出版会は、この世代向けに書籍を扱ったり、読書を推奨している団体。ヤングアダルト図書などの情報は、同会ホームページ（http://www.young-adult.net/）へ。